

## 10 薬事対策

### 1) 薬剤師ボランティアの活動状況

【活動期間】平成23年3月19日～6月30日

【対象地区】気仙沼市，南三陸町

【活動の概要】

#### (1) 活動内容

- ①DMAT医療団と共に救護所で医師の指示に基づく調剤及び薬歴管理
- ②避難者に対するお薬・健康相談及び一般用医薬品・衛生用品の配布
- ③医療団が使用する医療用医薬品・衛生用品の発注・管理
- ④救護所閉鎖後の残置薬の回収

#### (2) 活動避難所・施設数

気仙沼市総合体育館，DMAT本部，大島小学校，階上中学校，面瀬中学校，南三陸町総合体育館内救護所，戸倉避難所，歌津中学校，入谷小学校等

#### (3) 活動人員

延べ1,579人（気仙沼市内1,040人，南三陸町539人）

#### (4) 活動団体

宮城県薬剤師会（東京都，福岡県，佐賀県，長崎県，大分県，熊本県，宮崎県，鹿児島県，沖縄県，兵庫県，奈良県，滋賀県，京都府，和歌山県，長野県，山形県薬剤師会等所属）

### 2) 薬局・医薬品販売業等の被災状況及び再開・休廃業状況

※震災後：平成24年3月10日現在

	気仙沼市	南三陸町	合計
震災前の薬局件数 (H23.3.10現在)	26	11	37
全壊	7	10	17
大規模半壊・半壊	10	1	11
被害なし	9	0	9
震災後の開局件数 (H24.3.10現在)	25	4	29
全壊後再開	3	1	4
大規模半壊・半壊後再開	10	1	11
新規許可	3	2	5

	気仙沼市	南三陸町	合計
震災前の薬種商・店舗販売業件数(H23.3.10現在)	16	3	19
全壊	9	3	12
大規模半壊・半壊	2	0	2
被害なし	5	0	5
震災後の開店状況 (H24.3.10現在)	11	2	13
全壊後再開	4	2	6
大規模半壊・半壊後再開	2	0	2
新規許可	0	0	0

### 3) 所有者不明の毒物劇物への対応状況

(1) 事例（平成23年3月11日から平成24年3月10日まで）

容器からの漏洩がなく回収した事例（7件）

	発見日	発見物	発見場所
①	平成23年3月26日	クロルピクリン（推定）	南三陸町
	南三陸警察署より瓦礫の中から見つかった毒劇物らしき物が届いているので、毒劇物がどうかも含め保健所で確認してほしいとの連絡があった。保健所に持ち帰り保管することとなった。		
②	平成23年4月18日	硫酸	気仙沼市波路上
	気仙沼警察署より連絡があり、現場で確認後、保健所に持ち帰り保管することとなった。		
③	平成23年4月27日	75%薄硫酸	気仙沼市南郷
	瓦礫処理業者より連絡があり、保健所へ届けてもらい保管することとなった。		
④	平成23年8月22日	不明（2点）	東北電力（株）鹿折変電所付近
	気仙沼警察署より連絡があり、現場で確認したところ、ラベル等なく毒劇物に該当するかわからなかった。内容物が不明なものを放置しておくこともできないため、保健所に持ち帰り保管することとなった。		
⑤	平成23年11月4日	ホルマリン	気仙沼市波路上
	気仙沼市廃棄物対策課より連絡があり、現場で確認後、保健所に持ち帰り保管することとなった。		
⑥	平成23年11月28日	塩酸、ホルマリン、メチルアルコール等	気仙沼市南町
	気仙沼市廃棄物対策課より連絡があり、保健所へ届けてもらい保管することとなった。		
⑦	平成24年2月6日	水銀、塩化第2水銀	気仙沼市南町
	気仙沼市廃棄物対策課より連絡があり、保健所へ届けてもらい保管することとなった。		

①



②



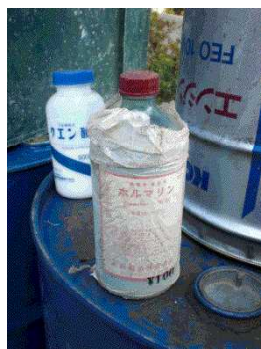
③



④



⑤



⑥



⑦



(2) 現場にて対応した事例 (5件)

① 3月31日：アンモニアガス

気仙沼市災害対策本部よりポンベのまわりからアンモニア臭がするとの連絡があり、現場の確認を行った。すでにアンモニア臭はせず、ポンベに接続してた配管も外れ臭いがしないことから、瓦礫として処理となった。



② 5月23日：35%過酸化水素

消防より35%過酸化水素のポリタンクが発見され、一部流出し白煙があがっており、保健所で収容及び処理してほしいとの連絡があった。対処法について伝え、消防が大量の水で希釈処理を行った。

③ 6月13日：業務用タンク

気仙沼市より瓦礫撤去中の業者から撤去予定のタンクに液体が入っており、毒劇物ではないかどうか確認依頼があるとの連絡があり、現場の確認を行った。内容物の記載等はなく、タンク内のおいや液体の状態等から毒劇物ではないと判断した。



④ 6月16日：過酸化水素

消防より、スーパー敷地内の瓦礫の中から過酸化水素のポリ容器が見つかったとの連絡があり、現場の確認を行った。容器からの漏洩はなく、瓦礫撤去を行っている業者が処理することになった。



⑤ 12月5日：食品添加物

瓦礫解体業者より解体中の工場の中から、毒劇物らしき物が見つかったので確認してほしいとの連絡があり、現場の確認を行った。発見した状況等聞き取りをしたところ、漂流物ではなく工場のものであることがわかり、食品添加物であることが判明した。

